

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-124073  
 (43)Date of publication of application : 13.05.1997

(51)Int.Cl. B65D 81/03  
 B65D 77/04  
 B65D 81/07

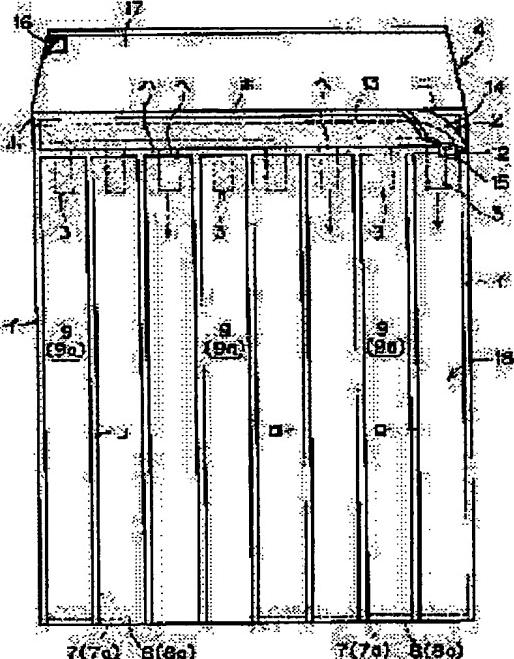
(21)Application number : 07-308236 (71)Applicant : KAKEN KOGYO KK  
 (22)Date of filing : 31.10.1995 (72)Inventor : TANAKA MIKIO

## (54) CUSHIONING PACKAGING BAG FOR DELIVERING ARTICLE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a packaging bag capable of filling air into the packaging bag, covering and closing an insertion/withdrawal mouth and preventing articles from being pilfered from the packaging bag.

**SOLUTION:** This cushioning packaging bag is constituted of a packaging bag main body comprising forming air filling/confining parts 9 communicating to one another at a bottom between an outer bag and an inner bag, both being composed of a plastic film, and forming an article containing part in the inner bag, an air introducing pipe 2 made of an airtight plastic film, having an air introducing port 12 connectively provided to an insertion/withdrawal mouth at one side end of the air introducing pipe 2 and having a flow passage, and a covering/closing member 4 connectively provided to the side of a mouth side edge on the other side of the insertion/withdrawal mouth. The air filling/confining parts 9 are linearly bonded to one another from a bottom 7 up to the insertion/withdrawal mouth to form air filling/confining separate chambers 9a which communicate to one another on the side of the bottom 7, respectively. Each separate chamber 9a and the flow passage of the air introducing pipe 2 are formed so as to be capable of communicating to each other by means of a check valve 3 only, and an end side edge on the side of the air introducing port 12 is formed so as to be separated from the packaging bag main body without being bonded thereto.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 31.10.1995

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2857638

[Date of registration] 04.12.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-124073

(43)公開日 平成9年(1997)5月13日

(51)Int.Cl.  
B 65 D 81/03  
77/04  
81/07

識別記号

序内整理番号

F I  
B 65 D 81/14  
77/04  
81/10

技術表示箇所  
C  
F  
B

審査請求 有 請求項の数5 FD (全8頁)

(21)出願番号 特願平7-308236  
(22)出願日 平成7年(1995)10月31日

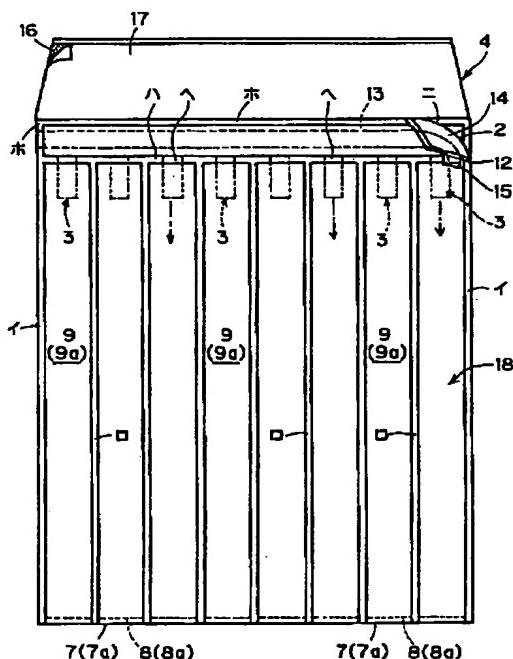
(71)出願人 390004293  
化研工業株式会社  
東京都港区芝大門1丁目10番1号  
(72)発明者 田中 幹雄  
奈良県天理市様本町386-3  
(74)代理人 弁理士 岩永 方之

(54)【発明の名称】 送品用緩衝性包装袋

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 包装袋へ空気の充填と、挿脱口の複閉を行なうことができ、物品が抜取られるのを防止できる包装袋を提供する。

【解決手段】 プラスチックフィルムから成る外袋5と内袋6の間に底部において連通する空気充填封入部9を形成すると共に、内袋6に物品収納部11を形成して成る包装袋本体1と、挿脱口10に連設した空気導入口12を一側端部に有する気密性プラスチックフィルムから成る流路13を備えた空気導入管2と、挿脱口10の他方の口辺縁側に連設した複閉部4から構成されており、空気の充填封入部9を底部7と挿脱口部10に亘り、線状に接着して底部側7において連通する空気の充填封入用分室9aを夫々形成すると共に、各分室9aと空気導入管2の流路13を逆止弁3のみを介して連通可能に構成し、空気導入口12側の端辺縁は包装袋本体1に接着することなく、包装袋本体1から遊離させて構成される。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 気密性プラスチックフィルムから成る外袋と内袋との間に、該両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を対向形成すると共に、該内袋により反底部側に物品の挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る包装袋本体と、該本体の挿脱口の一方の口辺縁側に連設した、空気導入口を一側端部に有する気密性プラスチックフィルムから成る細巾で扁平な流路を備えた空気導入管と、上記挿脱口の他方の口辺縁側に連設した該挿脱口の覆閉片とから構成されており、上記包装袋本体における空気の充填封入部を底部と挿脱口部に亘り、複数箇所で線状に接着して底部側のみにおいて連通する独立した複数の空気の充填封入用分室を夫々区画形成すると共に、該各分室と上記空気導入管の流路を各逆止弁のみを介して各別に連通可能に構成し、さらに、上記空気導入管の空気導入口側の端辺縁は包装袋本体に接着することなく、包装袋本体から遊離させたことを特徴とする送品用緩衝性包装袋。

【請求項2】 包装袋本体の外表面にクラフト紙等の強韌紙を層設すると共に、覆閉片の内表面に接着剤層を設けて構成したことを特徴とする請求項1に記載の送品用緩衝性包装袋。

【請求項3】 気密性プラスチックフィルムから成る外袋と内袋との間に、該両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を対向形成すると共に、該内袋により反底部側に物品の挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る包装袋本体と、該本体の挿脱口の一方の口辺縁側に連設した、空気導入口を一側端部に有する気密性プラスチックフィルムから成る細巾で扁平な流路を備えた空気導入管と、上記挿脱口の他方の口辺縁側に連設した該挿脱口の覆閉片とから構成されており、上記包装袋本体における空気の充填封入部を底部と挿脱口部に亘り、複数箇所で線状に接着して底部側のみにおいて連通する独立した複数の空気の充填封入用分室を夫々区画形成すると共に、該各分室と上記空気導入管の流路を各逆止弁のみを介して各別に連通可能に構成し、さらに、挿脱口の覆閉片の内表面に接着剤層を設けると共に、該挿脱口の近傍において、包装袋本体の裏面に、上記接着剤層を介して上記覆閉片を接着するクラフト紙等の層間剥離性を備えた紙材を貼着して構成したことを特徴とする送品用緩衝性包装袋。

【請求項4】 空気導入管の空気導入口側の端辺縁を包装袋本体に接着することなく、包装袋本体から遊離させたことを特徴とする請求項3に記載の送品用緩衝性包装袋。

【請求項5】 層間剥離性を備えた紙材の少なくとも表面が、該紙材色以外の色で着色されていることを特徴とする請求項3に記載の送品用緩衝性包装袋。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

10

20

30

40

50

【発明の属する技術分野】本発明は、収納した物品を損傷、損壊することなく、例えば、郵便小包、宅急便として簡便且つ安全に移送配達することができる送品用緩衝性包装袋と、上記の特長に加えて、収納物品の抜取りを効果的に防止することを図った送品用緩衝性包装袋の改良に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、この種の緩衝性包装袋として、例えば、実公昭6-35973号公報に開示されているように、気密性プラスチックフィルムから成る外袋と内袋との間に、該両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を対向形成すると共に、該内袋により反底部側に挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る包装袋本体と、該本体の挿脱口の一方の口辺縁側に連設した、空気導入口を一個所に有する気密性プラスチックフィルムから成る上記挿脱口の覆閉片兼用の扁平な流路を備えた空気導入管とから構成されており、上記本体における空気の充填封入部を底部と挿脱口部に亘り、少なくとも一個所で線状に接着して底部側のみにおいて連通する独立した複数の空気の充填封入用分室を夫々区画形成すると共に、該各分室と上記空気導入管の流路を各逆止弁のみを介して各別に連通可能に構成した送品用緩衝性包装袋等が知られている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】然るに、上記の送品用緩衝性包装袋の場合は、収納品の包装を確実に行うために、物品の挿脱口の覆閉片は相当に縦長に形成されており、従ってこの覆閉片を空気導入管として、兼用させると、覆閉片自体の空気収容量が大であるため、複数の各空気の充填封入用分室内への空気の充填速度の効率が悪く且つ物品の挿脱口の辺縁は、表裏共に充填封入された空気によって波状に膨満しているため、覆閉片による挿脱口の覆閉が困難且つ不完全であるといった問題があると共に、これに加えて、挿脱口の覆閉片を上手に剥ぎ開いて収納物品の一部又は全部を抜取った後に、再び覆閉片を接着剤で接着して挿脱口を覆閉することにより、痕跡を全く残すことなく収納物品を抜取られるおそれがあるといった問題がある。

【0004】本発明は、上記の問題を解決することを課題として研究開発されたもので、包装袋本体内への空気の充填封入を容易且つ迅速に行い得ると共に、覆閉片による挿脱口の覆閉を容易確実に行なうことができ、或いはこれに加えて、収納物品が巧みに抜取られるのを効果的に防止乃至抑制できる送品用緩衝性包装袋を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、その目的を達成する第一の手段として、本発明は、気密性プラスチックフィルムから成る外袋と内袋との間に、該両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を

対向形成すると共に、該内袋により反底部側に物品の挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る包装袋本体と、該本体の挿脱口の一方の口辺縁側に連設した、空気導入口を一側端部に有する気密性プラスチックフィルムから成る細巾で扁平な流路を備えた空気導入管と、上記挿脱口の他方の口辺縁側に連設した該挿脱口の覆閉片とから構成されており、上記包装袋本体における空気の充填封入部を底部と挿脱口部に亘り、複数個所で線状に接着して底部側のみにおいて連通する独立した複数の空気の充填封入用分室を夫々区画形成すると共に、該各分室と上記空気導入管の流路を各逆止弁のみを介して各別に連通可能に構成し、さらに、上記空気導入管の空気導入口側の端辺縁は包装袋本体に接着することなく、包装袋本体から遊離させたことを特徴とする送品用緩衝性包装袋を提供するものである。

【0006】また、上記の課題を解決し、その目的を達成する第二の手段として、本発明は、気密性プラスチックフィルムから成る外袋と内袋との間に、該両袋の底部側のみにおいて連通する空気の充填封入部を対向形成すると共に、該内袋により反底部側に物品の挿脱口を備えた物品の収納部を形成して成る包装袋本体と、該本体の挿脱口の一方の口辺縁側に連設した、空気導入口を一側端部に有する気密性プラスチックフィルムから成る細巾で扁平な流路を備えた空気導入管と、上記挿脱口の他方の口辺縁側に連設した該挿脱口の覆閉片とから構成されており、上記包装袋本体における空気の充填封入部を底部と挿脱口部に亘り、複数個所で線状に接着して底部側のみにおいて連通する独立した複数の空気の充填封入用分室を夫々区画形成すると共に、該各分室と上記空気導入管の流路を各逆止弁のみを介して各別に連通可能に構成し、さらに、挿脱口の覆閉片の内表面に接着剤層を設けると共に、該挿脱口の近傍において、包装袋本体の裏面に、上記接着剤層を介して上記覆閉片を接着するクラフト紙等の層間剥離性を備えた紙材を貼着して構成したことを特徴とする送品用緩衝性包装袋を提供するものである。

## 【0007】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明すれば、図1～図4は本発明の第一の実施の形態を示しており、この実施の形態にしたがえば、本発明に係わる送品用緩衝性包装袋は、大別して包装袋本体1と、空気の導入口2と、逆止弁3と、物品の挿脱口の覆閉片4とから構成されている。

【0008】而して、包装袋本体1は、気密性プラスチックフィルムから成る外袋5と内袋6との間に、該両袋5、6の底部7側のみにおいて連通部8を介して連通するように屈曲して構成された空気の充填封入部9を対向形成すると共に、上記内袋6により、反底部側に挿脱口10を備えた物品の収納部11を形成し、且つ上記空気の充填封入部9を、底部7と挿脱口10部に亘って、両

側縁の接着シール部イ、イ間の複数の箇所で略等間隔に線状に接着し、該接着シール部ロ…ロにより各底部7a側のみにおいて各連通部8aを介して連通するように屈曲構成された、この実施の形態では八つの独立した空気の充填封入用分室9aを夫々区画して対向形成して構成されており、図において、ハ、ニは外袋5と内袋6を挿脱口10の両辺縁において接着した接着シール部を示す。なお、上記の各空気の充填封入用分室9aは、包装袋本体1の表面側と裏面側とでは長さを異にしており、該空気の充填封入用分室9aの裏面側の上辺縁には、次に述べる空気の導入管2を連設する関係から、表面側の空気の充填封入用分室9aよりも若干短寸法に形成されている。

【0009】次に、上記空気の導入管2は、包装袋本体1の挿脱口10の裏面側の口辺縁側を所要長さ延長して一体に連設した、一端辺縁側に空気の導入口12を備えると共に、他の二辺側を接着シールホ、ホして形成した細巾の流路13を設けて成る二重の気密性プラスチックフィルムにより扁平且つ細巾に構成されており、且つ上記空気の導入口12側の端辺縁は包装袋本体1に接着されることなく、包装袋本体1から遊離した遊離片14が形成されると共に、空気の導入口12の位置を明示するために、流路13内に細巾のテープ15を挿入して、その端部を空気の導入口12から突出させてある。

【0010】また、上記逆止弁3は、公知のプラスチック製のフラット弁で構成されており、例えば実公1-35019号公報に記載されているように、プラスチックフィルムにより扁平に形成した空気の流通管と、該流通管内に装設した弁本体とから構成されており、この弁本体は、空気の流通方向において、先端側に閉塞部を備えると共に基端側に開放部を備えた扁平なプラスチックフィルムの二つ折り折曲片から成り、且つこの弁本体の両側縁は上記流通管の両側縁に夫々接着されていて、該流通管の両内側面と弁本体の両外側面との間に夫々形成された間隔を介して空気の流通が可能に構成されている（詳細図省略）。

【0011】而して、上記のように構成された複数の逆止弁3を図1、図2、図3に示すように、包装袋本体1における物品収納部11の挿脱口10の内面側の口辺縁において、各空気充填封入用分室9aと導入管2との連接部（接着シール部ハ）における無接着部へを介して各分室9a内に挿入し、該無接着部への両内側面と各逆止弁3の外側面との当接部分を接着することによって各逆止弁3を各分室9a内に装設したものであり、かくして各分室9aは、各逆止弁3の流路のみを介して導入管2と連通されており、このようにして導入管2の一側縁に複数の空気充填封入用分室8aが逆止弁3の流路のみを介して夫々連通可能に並列状態で連設される。

【0012】次に、上記物品の挿脱口10の覆閉片4は、挿脱口10の外側の口辺縁側の全巾にわたって稍

々長く一体的に連設されており、その内面の上方部に全巾にわたって細巾の接着剤層16が設けてあり、該接着剤層16には離型紙17が貼着されている。

【0013】また、上記のように構成された送品用緩衝性包装袋における包装袋本体1の外表面全体と覆閉片4の外表面には、クラフト紙等の可筆記性強韌紙18が層設されていて、送品の差出人と受取人の住所等の記載の便宜を計ると共に、包装袋の破損防止が計られている。なお、こゝに謂う「層設」とは、積層、貼着、被覆、被嵌等の各重ね合わせ形態を総称するものである。

【0014】次に、上記のように構成した本発明の第一の実施の形態の使用状態を作用、効果と共に説明する。先づ、包装袋本体1の物品挿脱口10から収納部11内に要緩衝物品Aを収容し、次に空気の導入管2の導入口12側の遊離片14を指先で摘み上げることにより、給気ノズル(図示せず)を導入口12内に容易に挿入でき、挿入した後に流路13内に空気を供給圧入すると、空気は細巾の導入管2を経てその閉塞側の最奥部に連設した空気の充填封入用分室9aから順次に各逆止弁3の流路を通って各分室9a内に迅速に導入される。

【0015】各分室9a内に導入された空気は、その各底部7a側に設けた連通部8aを経てその対向側にも導入充填され、各分室9aを膨満し、各膨満した分室9aにより要緩衝物品Aを外側から柔かく弾力的に抱持する。次に、覆閉片4に設けた離型紙17を剥離して該覆閉片4を挿脱口10側に折曲げ、その接着剤層16を利用して本体1の外表面に接着し、該挿脱口10を覆閉して要緩衝物品Aの包装を完了するのであるが、挿脱口10の口辺縁に設けた空気の導入管2は空気で膨満されていないので、覆閉片4の接着を容易確実に行ない得る。

【0016】上記のようにして包装された収容物品Aは、空気により膨満された各充填封入用分室9aにより外側から緩衝的に確実に抱持されているので、包装袋の内部で妄動することがなく、外部の衝撃から十分に保護されて破損するおそれもなく、また、上記各分室9aは夫々独立して空気を封入するように構成されているので、一つの分室9aが破損して封入空気を放出しても、他の膨満した各分室9aにより緩衝作用を保持できるものである。

【0017】さらに、挿脱口10は覆閉されているので、搬送等の取扱い中に収容物品Aが逸出するのを確実に防止し得ると共に、包装袋の外表面に層設したクラフト紙等の可筆記性強韌紙18により、包装袋としての強度を著しく向上でき、且つ差出人及び受取人の住所、氏名等を確実に明記できるものである。

【0018】次に、図5～図7は本発明の第二の実施の形態を示しており、この実施の形態は上記本発明の第一の実施の形態の総ての構成を具備している。即ち、包装袋本体1、空気の導入管2、逆止弁3及び物品の挿脱口の覆閉片4の構成は、上記本発明の第一の実施の形態と

全く同一であって、相違しているのは、第一の実施の形態における挿脱口10の若干下側寄りの近傍に位置して、包装袋本体1の裏面に、表面に着色印刷層19aを設けた稍々肉厚のクラフト紙から成る層間剥離性を有する広巾なテープ状の紙材19を横方向に接着した点であって、覆閉片4を折曲げて挿脱口10を覆閉した際に、覆閉片4の内表面に設けた細巾の接着剤層16が該紙材19の表面の略々中間位置に接着するように構成した点で上記第一の実施の形態と相違しているのみであるから、上記第一の実施例と同一の部分には同一の符号が付してある。

【0019】したがって、この第二の実施の形態によれば、上記第一の実施の形態によてもたらされる作用、効果の総てを達成できると共に、次の独自の作用、効果を達成できる。即ち、この第二の実施の形態にしたがえば、物品を収納して覆閉片4により挿脱口10を覆閉した包装袋本体1を、その覆閉片4を剥離して開封すると、図7に示すように、層間剥離性を備えた紙材19の表層部の着色印刷層19aが覆閉片4の接着剤層16の接着力により覆閉片4側に剥離転着されて、紙材19に剥離痕跡19bを形成すると共に、接着剤層の再接着力を失なわせるので、物品Aを収納した包装袋の移送中に、悪意又は悪戯行為による収納物品Aの抜取りを効果的に防止乃至抑制できる利点が付加されるのである。なお、この第二の実施の形態で言う「層間剥離性を備えた紙材」とは、該紙材の表面に、例えば粘着テープ、接着テープ等を接着した後、該テープを剥離した際に、紙材の表層部分が剥離してテープ側に転着する性質の紙材を総称するものである。

【0020】以上、本発明の主要な実施の形態について説明したが、本発明は、これらの実施の形態に限定されるものではなく、発明の目的を達成でき且つ発明の要旨を逸脱しない範囲内で種々の設計変更が可能であることは当然である。

#### 【0021】

【発明の効果】請求項1に記載した本発明の送品用緩衝性包装袋によれば、次の優れた諸効果を達成できる。

【0022】(1) 空気の導入管の流路は、既述した従来のものに較べて細巾に形成されているので、複数の各空気の充填封入用分室内への空気の導入を著しく迅速、能率的に行なうことができ、また、物品の挿脱口の裏面側の口辺縁に設けられている空気の導入管は、空気で波状に膨満されることがないので、物品の挿脱口を覆閉する覆閉片の接着を容易確実に行なうことができる。

【0023】(2) 空気の導入管の空気導入口側の端辺縁は、包装袋本体に接着されずに遊離されているので、この遊離片を指先で摘み上げることにより、給気ノズルを空気導入口内に容易に挿入できる。

【0024】(3) 収容物品は、各膨満分室により全外側から緩衝的に確実に抱持されているので、包装袋の

内部で姿勢することもなく、外部の衝撃から十分に保護されて破損するおそれがない。

【0025】(4) 各分室は夫々独立して空気を封入するように構成されているので、包装袋全体の過度の膨満を規制し得ると共に、一つの分室が破損して封入空気を放出しても、他の各膨満分室により緩衝作用を十分に保持できる。

【0026】また、請求項3に記載した本発明の送品用緩衝性包装袋によれば、上記した(1)、(3)、(4)の効果に加えて、次の効果を達成できる。

【0027】包装袋本体に設けた物品の挿脱口の近傍において、包装袋本体の裏面に、接着剤層を介して覆閉片を接着するクラフト紙等の層間剥離性を備えた紙材が貼着されているので、物品を収納して覆閉片により挿脱口を覆閉した包装袋本体を、その覆閉片を剥離して開封すると、層間剥離性を備えた紙材の表層部が覆閉片の接着剤層の接着力により覆閉片側に剥離転着して、紙材に剥離痕跡を形成すると共に、接着剤層の接着力を失なわせるので、物品を収納した包装袋の移送中に、悪意又は悪戯行為による収納物品の抜取りを効果的に防止乃至抑止できる多大な利点がある。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一の実施の形態を示す一部を剥離した裏面図である。

【図2】図1における遊離片の遊離状態を示す裏面図である。

【図3】図1のA-A線に沿う一部省略拡大断面図である。

【図4】図1のB-B線に沿う一部省略拡大断面図である。

【図5】本発明の第二の実施の形態を示す一部を剥離した裏面図である。

【図6】図5における覆閉片により挿脱口を覆閉した状\*

\* 様の裏面図である。

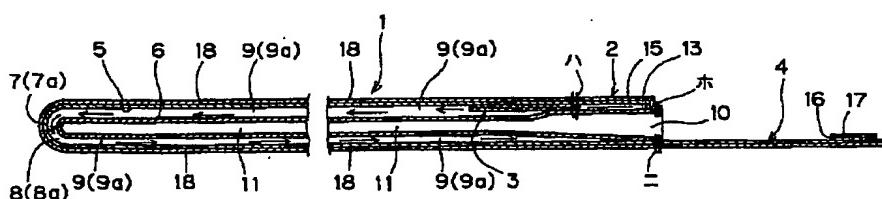
【図7】覆閉片を剥離して包装袋を開封した状態を示す裏面図である。

【図8】包装袋による物品の緩衝包装状態を示す簡略説明図である。

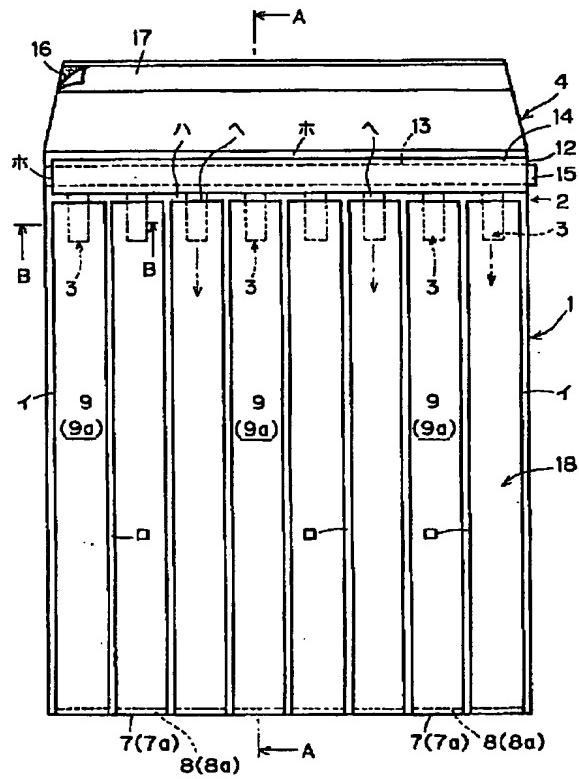
#### 【符号の説明】

1	包装袋本体
2	空気の導入管
3	逆止弁
10	4 覆閉片
	5 外袋
	6 内袋
	7 底部
	7 a 各底部
	8 連通部
	8 a 各連通部
	9 空気の充填封入部
	9 a 各空気の充填封入用分室
	10 物品の挿脱口
	11 物品の収納部
	12 空気の導入口
	13 流路
	14 遊離片
	15 細巾のテープ
	16 接着剤層
	17 離型紙
	18 可筆記性強韌紙
	19 紙材
30	19 a 着色印刷層
	19 b 剥離痕跡
	イ～ホ 接着部
	ヘ 無接着部
	A 収納物品

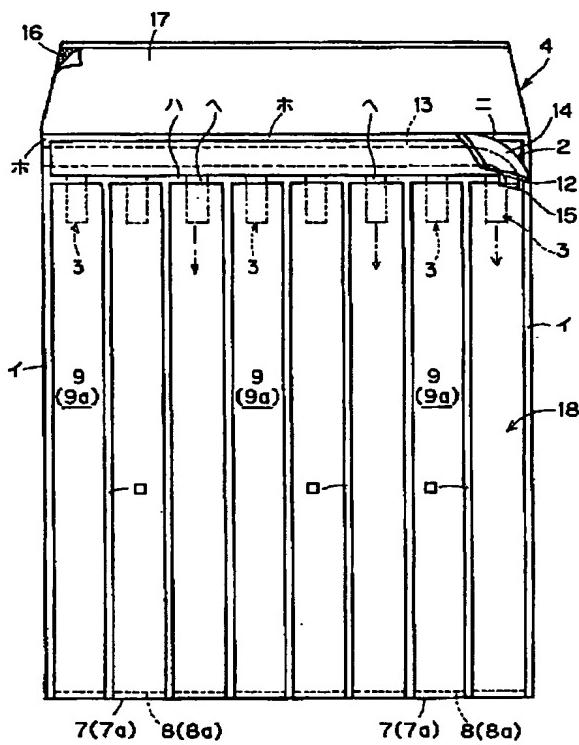
【図3】



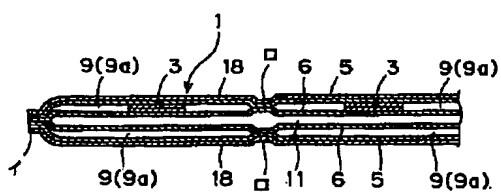
【図1】



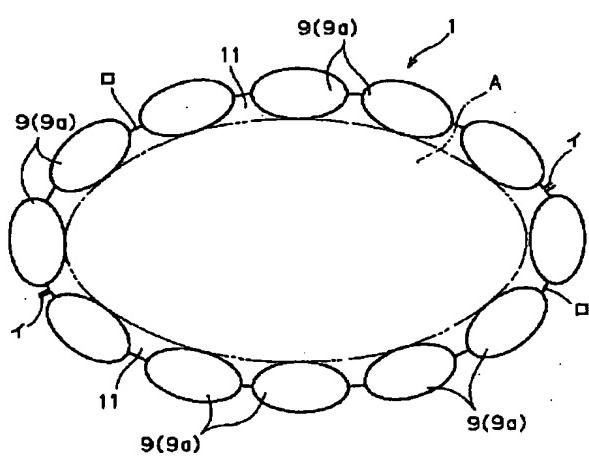
【図2】



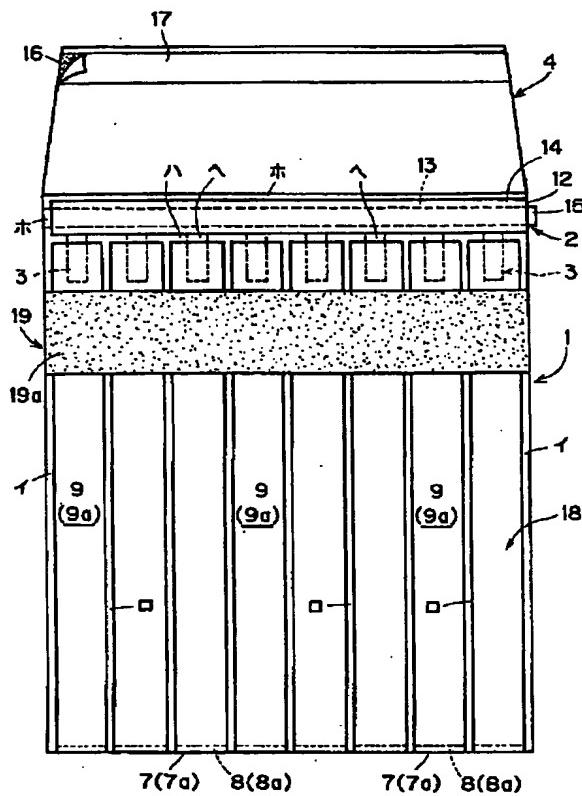
【図4】



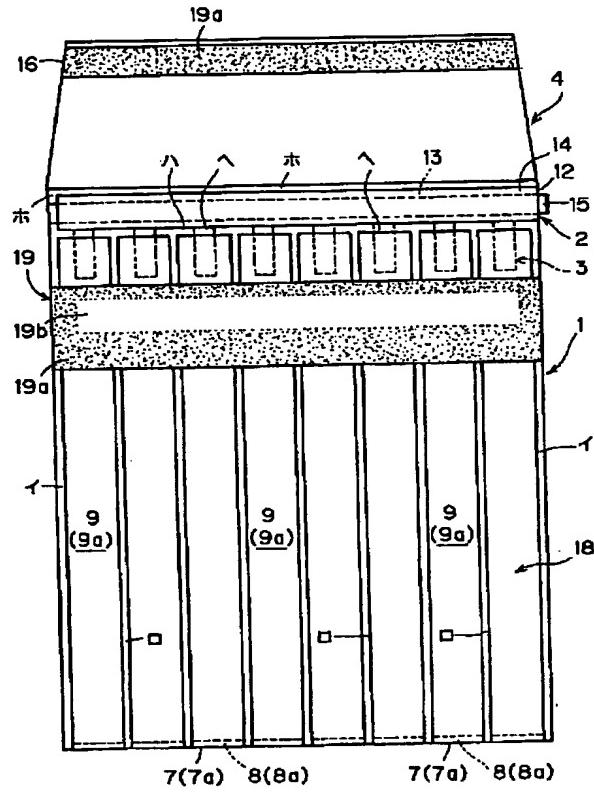
【図8】



【図5】



【図7】



【図6】

